

▼第1講授業日

令和 年 月 日 () 限 *各自記録

▼今回のテーマ

「知ってみよう！講師の人柄と科目の中身」*授業オリエンテーション

▼学習の方法

アクティブなワンマンショー

▼授業で伝えたこと

- ・保育士・幼稚園教諭を持っており、福祉・教育の現場にいた経歴がある。
- ・常にまっすぐで素直、チャレジ精神旺盛な性格。素直で嘘をつけず、反骨精神に溢れている。学生に負けないノリの良さと、ちょっとヤンチャに育った背景がうかがえる言葉遣い、大きな声と早口が特徴。熱意には熱意で応えるガッツと社会の厳しさを思わせるドライさを兼ね備えている教員。
- ・授業はパフォーマンス性に富んでおり、メリハリをつける授業スタイル。熱く語った結果、折ったチョークの本数は数知れず。
- ・睨むがごとき目力で見つめることと、ダル絡み、気づいたら雑談に発展するコミュニケーションを取ることが多々ある。空返事の際は右から左に流れていっているため、こちらから声をかけるまで待つと良い。
- ・ついていくのは大変だけどついていこうとする人には手を差し伸べるスタイル。手を挙げれば耳を傾け、教えを示す。
- ・主観と客観の実践、知って楽しい、失敗は楽しい、経験から学習する、気づきと概念化、自己理解の必要性と他者との関係構築に必要なこと、他者理解や社会理解の意味。
- ・社会福祉って何？なぜ学ぶ？どうやって授業する？授業の方針は？指導の理念は？専門職とは？

▼授業で伝え忘れたこと

- ・マスクを外して授業できない時代だからこそ、写真を見て人相をご確認ください！

▼全体評価

みんな元気ですばらしい！学びたいというワクワクした気持ちを感じられたのは素晴らしい！
 質問に答えてくれた人も、前に出てくれた人も、前のめりで話を聞いてくれた人も、メモをしようとしてくれた人も、勇気を出して何かをしようとした姿勢も素晴らしい！気づかいてくれたことも、話かけに来てくれた人も、みんな素晴らしい！
 教師もまた来たい授業だ、また笑わせたいと思えるくらい素晴らしい！
 限られた時間でせかされて書いたリアクションペーパーも、自分なりに書くことが出来ていて素晴らしい！結果、素晴らしい環境だ。学びの質が高まる環境が整備されていて、本当に素晴らしい！

▼次回への引継ぎ

元気！やる気！勇気！誰かが発表したら excellent!!+👏 *響きとリズムが好きだから excellent をチョイス👏
 間を取れなくても発話 *間が悪い時は止めます(笑)

<<授業で取り上げた内容と keyword の振り返り (特別甘やかし編) >>

▼いつ、どこで、誰が担当して授業をする？

- ・いつやるの？ : 曜日 限 *各自記録
- ・どこでやるの？ : クラスの教室
- ・誰が担当なの？ : 藤原匡宣 Fujiwara Masanori
 非常勤講師 (火曜日 PM・金曜日 AM が出校)
 複数の学校で教鞭をとっている。
 千葉こども以外で担当している科目：子ども家庭福祉論・児童福祉論、社会的養護、メンタルヘルス論、社会福祉援助技術演習、社会福祉現場実習指導、心理学、教育原理、キャリアデザイン
 詳しくは公開 Profile を検索(検索ワード：Pando 藤原匡宣 V researchmap 藤原匡宣)
 他己紹介&取り扱い説明は、授業用 HP で公開中(検索ワード：藤原匡宣他己紹介)

▼なにを学ぶの？(概要)

- ・社会と福祉はどのようにできたか、どのような考え方からはじめて、社会福祉の全体像を理解する
- ・社会福祉に関わる歴史的な背景から現代社会におけるまで、体系的に学ぶ
- ・すべて国民 健康 文化的 最低限度の生活 営む権利がある
- ・人の権利を守る仕事に就く意味
- ・人が生活課題に直面するということ、人が生活課題を整理するということ、人が生活課題を乗り越えるということに迫る
- ・人を援助するための理論と方法がある
- ・社会で何が起きているのか、そもそも問題とは何か、なぜ問題か、どのようにして問題になるのか

▼なぜ学ぶの？(目的)

人にやさしく、自分にもやさしく。
 人が、自分が、困りを抱えたときに何に対して何ができるかを考えるため。
 福祉・教育の専門職として、社会と他者にどのような援助、指導をするのかを考えるため。

▼どのように学ぶの？(方法)

- ・自分、他者、社会に対する意欲関心を高めるところから
- ・学びをカタチに、学びをチカラに／よく見て、聞いて、考えて
- ・自主、自立、感動、感謝／挑戦、創造、協力、遊ぶ
- ・客観的なものの見方や考え方を身につけた援助者を意識しながら
- ・自分のためにも、人のためにも活用できる知識として
- ・自分流参考書をつくるためのノートづくりをしながら
 教科書(専門家が伝承する知)+ノート(学びのカタチ)+副教材(授業用 HP/専門知識と経験知識、修正、統合/ペーパーレス、準備効率化のための取り組み)+世に出回っている資料(正な情報の収集とおさらい)+参考書・六法(知の根拠の整理)=現場で活用する知識と技術(学びのチカラ)
- ・まずは発言してみるところから。

▼学んだことをどのように生活に生かすの？(目標、効果)

- ・ 専門職として知り得ておきたい事柄は、シラバスでの目標でも確認を。
- ・ 学びで得たことを自分らしく表現する練習＝生活実践(身近な人に学習内容を説明してみる、授業に積極的に参加して失敗してもやってみる)を意識して、生活に汎用できるものにする。
- ・ 客観的に物事を探求する感覚も養う。
- ・ 自己表現もいろいろ＝文章表現、口述表現のベースを身につける。(音楽？演劇？落語？作文？…etc.も活用してみる)
- ・ 実習で知識と経験(授業内での経験+生活・人生での経験)を自分なりに表現できる。

▼事前・事後学習のススメ

<参考資料>

- ・ シラバス (規定に則って作成された学内資料)
「千葉こども専門学校情報公開」で検索
シラバス (PDF ファイル) をクリックして「社会福祉」を探す。
*4/13 現在では、講師名が小松仁美先生になっている。
ちなみに小松仁美先生は、私の先輩(現・清泉女学院短期大学幼児教育科講師)。
研究者でもありスケボーでスポンサーがつくくらいの先生。
- ・ 保育士養成における教科目の目標と教授内容について(行政資料)
「保育士養成課程等の見直しについて検討の整理報告書」を検索
厚生労働省 HP の「保育士養成課程等の見直しについて (検討の整理) [報告書]」のページから
「別添 1 保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」(PDF) をクリックして
「社会福祉」を探す。

* POINT

- ・ 保育士養成で学びを受けている科目の開講にも理由がある。
- ・ ゆとりがあれば「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～(検討の整理)」や周辺ページの資料も目を通してみよう。
- ・ 難しい事柄がたくさん書いてあるけれど、読み込むことよりも活字に慣れる、専門的な表現、用語に慣れるために読んでみるとよい。
- ・ まだ中身はわからなくて大丈夫！
- ・ 自分からの発見は行動につながる、自分でやったことは自分でわかる、見たことは覚える、聞いたことは忘れる。知識を使えるものに変えよう。
- ・ ルールにのっとって専門的に書いてあるシラバス(授業概要)を確認！
- ・ オリエンテーションでの話を基に、教科書や現場で使う言葉に置き換えて文章化されたものを読むと、なぜかしくりくるはずですよ！まずは、それを試してほしい藤原匡宣。
- ・ わかってもわからなくても、不安でも不安でなくても、学びの楽しみ方を知ってから学び始めると、急にわかる日がやってきます。
- ・ 得意や苦手は誰にでもある。わかることもわからないことも誰にでもある。得意になればいいだけでも

なく、わかればいいだけでもない。まずは、感じること、察すること、考えることから始めよう。

- ・自分が経験したことがないことに、興味と関心を持つ。自分が経験したことが授業で出てきたら、心の中を整理しよう。
- ・自分の人間らしさを感じながら、自分の人間らしさを生かしながら、人に関わり、人の問題に触れ、人の生活を保障し、人が人らしく生きることが出来るように援助する仕事につくからこそ、自分の考えだけに囚われないための知識を身につけよう。

▼成績評価

- ・意欲・関心・態度(リアクションペーパー+事前事後課題)：30%
 <内訳>全授業回(授業回 30 回)につきリアクションペーパーを課し 1 回 1 点で算出する。
 *出席・提出物管理表を自己責任において、毎時記入する。
- ・試験及びレポート課題：70%
 <内訳>授業内試験(2 回を予定で 15%+15%=30%)+課題レポート(2 回を予定で 20%+20%=40%)

▼授業で用意するもの(追加&工夫を！)

- ・宿題や配布プリントがあった場合、保管用にクリアファイルなどを準備しておくとうい。
- ・リアクションペーパーを返却した際には、30 回分のリアクションペーパーを挟むためのファイルを用意すると、ノート別冊ができる。

▼快速、特急、超特急？いや、暴走特急？！走り出したら止まらない授業についていく技①

- ・ペンは一色のみ使用を推奨。単語にマーク、気づきや疑問、暗記ポイントなどには記号。色付けは、復習時に。
- ・ノートには、記録すべきことは、しつこく言っている言葉、協調して話した言葉、重要と示したことば、ページ数。
- ・大事な部分の本質を見抜き、作業は常々短く、話を聞く、話すことに集中しながら全身フル回転で。
- ・自分なりのタイミング、ルール、リズムをつけよう。自分がわかる/感じる/考えるための自分流を発見しよう。
- ・出席者が全員同じノートの中身になっていて、板書をノートに書き写すだけなら、プリント学習でよい
- ・聞いているだけでわかるなら、ラジオでいい。読んだだけでわかるなら、本でよい
- ・全員分のノートを足し合わせて、教科書に負けない自分教科書をつくろう
- ・得意不得意が出たときに、得意な人から聞こう
- ・わからないから学ぶ、わからないから感じる。人生わからないことだらけ、人生不安だらけ。成功も失敗もある。失敗しないと成功しない。成功だけ勝ち取ることはできない
- ・授業は、超特急風快速電車。終点地まで授業でつれていくから、まずは見て(教科書、テレビ、新聞、本とか)、聞いて(授業、身近な人との会話、ラジオ、音楽、落語とか)、考えて(自分なら…、想像する、感じてみるとか)してみる。
- ・ノートはスケッチブック。自分に見えたものそのまま描いてみる。見るもの、描くものが異なれば同じ絵は生まれえない。だから、周りや成果や評価とか、自分を締め付けるものに捉われずに描く。

***POINT**

- ・失敗する勇氣
- ・自己理解、立ち位置の理解、社会の構造の理解にもつなげる
- ・人間関係の構築をして自分のチカラを発揮できる環境をつくる
- ・気づく、わかる、ひろげる、つくる、つかう、つたえる
- ・あらゆる視点から一つの事柄を見てみる。主観に躍らされず、客観視する力が求められる資格者としての自分をイメージして、前へ！

▼快速、特急、超特急？いや、暴走特急？！走り出したら止まらない授業についていく技②

- ・事前学習として、次回の指定単元をシラバスで確認し、教科書で該当するページを読んでおくとうい。
 - ・教科書を読んだだけではわからないことがたくさんある。
事前学習では、理解することより、興味関心を持つことを目的にしてみよう。
 - ・知らない言葉や事柄が出てきても、決して苦手意識(自身の経験による判断)を持たないようにすることを心がけて。知らない事柄は、知らない事実があるのみで、悪いことではなし。知らないことを知るために授業がある。知らないことを自覚することに意識を向ける。
 - ・活字で認識(事前学習)、音で認識(授業)を繰り返せば、自然とわかるようになる。
 - ・概念理解に発展させるサイクルができるようになると、授業が楽しくなるはず。
 - ・事後学習として、散乱したノートを基に、重要単語の色付けや要点をまとめたまとめ欄をつくると、学習内容の理解が深まる。授業内課題で提出物としてまとめる作業はする。
 - ・授業内課題は授業後に回収されるため、授業内課題を思い出して授業後にも自分なりに再度まとめておく自分のためになる。自分流参考書の質は高まる。
- *「学びをカタチに、学びをチカラに」このテーマの本質、取り掛かりの近道が事前・事後学習かもしれません。

***POINT**

- ・誰かが決めた当たり前や自分の中にある当たり前にとらわれない
- ・わかるかわからないも大事だがわかろうとするかしないかも大事
- ・学ぶ意味や目的は何か
- ・授業だけですべてを理解しようとしなない。
- ・理解度、スピードには個人差がある。受け止め方もさまざま。一回の授業で全てを理解することは不可能。難しい事柄がでてくることも事実。でも、大丈夫。
聞きそびれたら、一回降りて各駅停車に乗り換えて戻ってみて。自分のリズムでいい時もある。一回電車から降りると、風景も見直せるし、細かいところだって見えることもある。
- ・ただただ主観だけで動かず、客観的な視点も持ち合わせる練習もして、授業では、社会福祉に関する基礎的なものの見方や考え方のベースや視点のひとつ、客観的な社会的事実にあふれる。

▼Message

やったことがないことは、誰もが不安。だから、不安で大丈夫。
 スピードもついてこれなくてもいい。ノートも話したことをすべて書かなくてもいい。
 学び方が変われば、取り組み方も変わる。
 心が揺れたらとまるもよし。
 授業だけではすべて理解できないこともある。だから、日々勉強、興味関心を高めることが大事。
 まずは、授業に入り込むところから始めよう！授業の主役は、みんな。主役になる練習をしよう！
 卒業後に、みんなの夢がかなったときに、人前に出ている姿も想像してごらん下さい。

やるかやらぬか、あなた次第！

一年後、勉強楽しかった！現場に出たら使えることがたくさんある！と、自身を持って言える日が来ることを願います！！

▼気をつけたいところ

社会福祉という科目を受講していると、学生が現実に抱えている課題に直面しなければいけないことになる場合もある。その時は、一回落ち着こう。時には、信頼できる他者と話をしてみよう。落ち着いてみると、自分の気持ちや事実を整理して対処するものにつながることもできることもある。逆に、つらくなったり哀しくなったりしたら無理しなくてもいい。立ち止まることも大事。どちらにせよ、気持ちの変化の経験も大切な成長プロセスになり、人間生活の理解、自己の理解、他者の理解にもつながる。

こうした状況で直面する事柄は、専門職としては向き合う必要がることでもある。気持ちの変化を感じた際は、どんな時に自分の気持ちが揺らぐのかを知れた、専門職として求められるチカラの一つを学んだと、主観と客観を分けてみると良い。状況にあわせて、落ち着いて過ごそう！

急いで作成したフィードバック資料です。
 話した内容を振り返り、ベタ打ちをして、
 ボランティアスタッフにカタチにしてもらいました。
 急いだゆえに、乱文はお許しあれ🍀

